

施策2-4 学校・家庭・地域の連携・協働

ポイント

- 子どもの健全な成長には地域との関わりが重要
- 学校、家庭、企業、NPOなどの連携した子どもの育成
- 多様な大人との交流を通じた子どもの成長支援
- 家庭教育の基盤強化と支援体制の充実



1 施策の方向性

- かつての地域社会は、子育てを共同で担っていましたが、経済的豊かさとともに、地域社会の関わりも薄れていきました。現在、子どもの生活圏は限られ、子育ての担い手も限定的になっています。しかしながら、子どもの健やかな成長には、地域との関わりによる豊かな経験が不可欠です。地域社会全体で子どもや子育て世帯を見守り、支えるために、子どもをまんやかに据えて、地域社会がつながることが、今まさに求められているのです。
- 子どもや学校が抱える課題の解決と、子どもの幸せを実現するために、学校が家庭や企業、NPOなどを含む地域と一体となり、子どもをはぐくみます。
- 子どもが、保護者や教職員だけではなく、多様な大人とのふれあいを通して、さまざまな力を身に付けられるよう、子どもの育ちや学びを支える環境づくりを進めます。
- 家庭は、子どもの健やかな育ちと学びの基盤です。すべての保護者が安心して家庭教育を行うことができるよう、家庭教育支援の充実に取り組みます。

2 施策の成果指標

	項目	基準値	目標値	
		R7	中間 R12	最終 R17
1	板橋区コミュニティ・スクール（iCS）の仕組みを活用し、地域と一体となって子どもたちをはぐくんでいる学校の割合	58%	68%	78%
2	あいキッズ利用者満足度調査結果「成長できた」「どちらかといえば成長できた」の割合	64.3%	70%	75%
3	家庭での子どもに対する生活習慣などの教育への支援がされていると思う保護者の割合	72%	77%	82%
4	地域の活動に参加したいと思う児童・生徒の割合	76%	81%	86%

3 施策に連なる事業

NO	001	事業	板橋区コミュニティ・スクール（iCS）の推進（地域教育力推進課）		
内容	板橋区コミュニティ・スクール（iCS）は、保護者や地域の方が参画し、学校の運営や課題を話し合う「コミュニティ・スクール委員会」と、地域コーディネーターの調整のもと保護者や地域のボランティアが教育活動を支援する「学校地域支援本部」が両輪として協働しながら運営されます。このiCSの仕組みが円滑に機能するよう、関係者へのさまざまな支援を行い、学校・家庭・地域が一体となって子どもをはぐくむ環境の整備を進めます。				
年度別	令和8年度	令和9年度	令和10年度		
計画	①コミュニティ・スクール委員会アドバイザー派遣事業の実施 ②地域コーディネーターやコミュニティ・スクール委員向けの研修の実施 ③iCSレターによる好事例などの情報発信				

NO	002	事業	家庭教育支援の充実（地域教育力推進課）		
内容	中学生以下の子どもを育てる保護者に対し、安心して家庭教育ができるよう、専門家などと連携し、学習機会の確保や情報・ツールの提供を通じてニーズに応じた支援を行います。				
年度別	令和8年度	令和9年度	令和10年度		
計画	①家庭教育学級の実施 ②生活習慣チェックシートの作成・配付 ③家庭教育支援チームの運営				

NO	003	事業	あいキッズの推進（地域教育力推進課）		
内容	放課後などの小学生の居場所としてのあいキッズにおいて、地域との連携強化を図るための支援体制を構築し、地域人材の活用などによる体験・交流活動を一層充実することにより、子どもたちのつながり、学び、成長を支える環境づくりを進めます。				
年度別	令和8年度	令和9年度	令和10年度		
計画	①総合コーディネーターの導入 ②地域サポーター事業の内容・回数の充実（10校）	①総合コーディネーターの導入 ②地域サポーター事業の内容・回数の充実（20校）	①総合コーディネーターの導入 ②地域サポーター事業の内容・回数の充実（30校）		

NO	004	事業	青少年の健全育成（地域教育力推進課）		
内容	ジュニアリーダーなどの青少年に対し、青少年委員や青少年健全育成地区委員をはじめとした、青少年健全育成に携わる地域の方々と連携し、スポーツ・文化芸術活動や地域活動・野外活動への参加を通じた多世代との交流や多様な体験の機会を提供するとともに、地域貢献などの行いを表彰することにより、青少年の健やかな成長につなげます。				
年度	令和8年度		令和9年度		令和10年度
別 計画	①ジュニアリーダーの育成、活動機会の拡大 ②地区青健活動の実施 ③青少年表彰の実施 ④全区的なスポーツ・青健の開催（親子たこあげ大会・少年野球親善大会・板橋音楽祭）				

NO	005	事業	部活動の地域移行・地域展開の推進（教育総務課、多様な学び推進担当課、文化・国際交流課、スポーツ振興課）		
内容	中学生のスポーツ・文化芸術活動の機会確保のため、部活動を教育委員会が運営団体となる「いたばし地域クラブ」へ移行していきます。また、部活動地域移行シンポジウムを開催し、保護者やスポーツ・文化芸術活動などの関係者との共通理解を深めていきます。				
年度	令和8年度		令和9年度		令和10年度
別 計画	①既存の区立中学校部活動の1種目を地域クラブ化（累計2種目） ②部活動地域移行シンポジウムの開催	①既存の区立中学校部活動の1種目を地域クラブ化（累計3種目） ②部活動地域移行シンポジウムの開催	①既存の区立中学校部活動の1種目を地域クラブ化（累計4種目） ②部活動地域移行シンポジウムの開催	①既存の区立中学校部活動の1種目を地域クラブ化（累計4種目） ②部活動地域移行シンポジウムの開催	①既存の区立中学校部活動の1種目を地域クラブ化（累計4種目） ②部活動地域移行シンポジウムの開催

コラム⑪：ともに学び、ともに成長するー連携・協働で進む多様な学びー

「MIRAI SCHOOL いたばし」の実現にあたっては、地域社会全体を学びの場（学び舎）として、多様な人々がつながり、関わり合いながら、生涯にわたって学び成長する、地域教育力が重要です。

ここでは、地域と学校が一体となって環境教育に取り組む緑小学校と、地域での学びの場（学び舎）で活躍するジュニアリーダーの取組を紹介しています。

子どもも大人も共に学ぶ機会をさまざまな場所で創出していくことで、世代間交流が活性化されます。こうした取組が増えていくことで、区民一人ひとりが学ぶ喜び、成長する喜び、人とつながる喜びを実感し、いたばし全体に学びのキャンパスを広げていくことをめざしています。

(1) 緑小学校 iCS の取組が文部科学大臣表彰を受賞！

受賞の取組：ビオトープの設置と維持管理を軸とした子どもとともに考える環境教育の実践

緑小学校では、「持続可能な社会の担い手となる児童の育成」をテーマに、緑豊かな環境を活かし、ESD³⁶およびSDGsの視点を踏まえた自然体験活動を軸にした環境教育に取り組み、令和4(2022)年からユネスコスクールに加盟しています。

そうした取組の一環として、校庭の改修工事に合わせて、子どもが自然に親しめるビオトープを設置しました。地域と学校が一体となって、子どもを主体としたビオトープの維持管理をバックアップする形で環境教育を実践している点が評価され、令和7(2025)年には、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰を受賞しました。

CS委員会の熟議にて・・・

- ・緑豊かな緑小学校の特徴を生かした環境教育をもっと推進したい！
- ・学校の敷地内で自然を体験できるビオトープを作れないか…？



それに対して子どもは・・・

総合的な学習で「ビオトープのイメージ図」を作り、CS委員会に「こんなビオトープを作りたい！」という想いを投げかけました。

CS委員会では子どもからの協力依頼を受け、熟議を重ね、ビオトープの設置や維持管理について子どもが主体となり、地域がサポートする体制を作りました。



(2) 板橋区の青少年健全育成事業と、活動の要であるジュニアリーダー

大人になっても子どもの頃の楽しかった思い出は鮮明に覚えているものです。野球やドッジボール、バレーボールなどのスポーツや、キャンプファイヤーやハイキングなどの野外活動、たこあげやクリスマス会などの季節のイベント……。子どもが楽しいと思える活動を地域ぐるみで推進するために、区内18地区の青少年健全育成委員会が各地区の特性を活かした様々な事業を展開しています。各種事業に参加する子どもの自己有用感や思いやりの心を醸成し、社会性や豊かな人間性をはぐくむとともに、コミュニケーション能力や規範意識を高め、そして将来の地域活動の担い手となるよう、地域全体で青少年の育成に取り組んでいます。

また、地域の各事業においては、子どもの「おにいさん、おねえさん」的存在として「ジュニアリーダー」が活躍しています。野外キャンプでのや、地域のイベントでの工作体験などの活動に、事業の企画・立案段階から実際の運営まで携わります。また、地域の大人と子どもをつなぐ「橋渡し役」としても活躍しています。今後もジュニアリーダーの活動を積極的に推進し、ジュニアリーダーのすそ野の拡大をめざします。



36 Education for Sustainable Development の略。持続可能な開発のための教育。